

助成者	近藤 美沙子	活動期間	2025年4月～2027年3月（予定） 活動中
所属機関	ウータン・森と生活を考える会	職 名	インドネシア事業担当

ボルネオ島の村人主体のエコツーリズムによる持続可能な森林保全と地域&世界へ発信する拠点づくり

【活動場所】 インドネシア 中央カリマンタン州 セコニヤール村 ジュルンブン地区

【事業目的】 インドネシアカリマンタン島のタンジュン・プティン国立公園のバッファゾーンであるジュルンブン地区は火災によって森林や生態系が失われた場所であり、これまで現地NPOが中心となり森林回復へ向けた植林活動を実施してきた。その西隣には広大なパームプランテーションが広がる。当地域における環境問題を世界のより多くの方に知ってもらうとともに、森林・生態回復へ向けた活動を持続していくため、当地区においてエコツーリズム事業を立ち上げる。



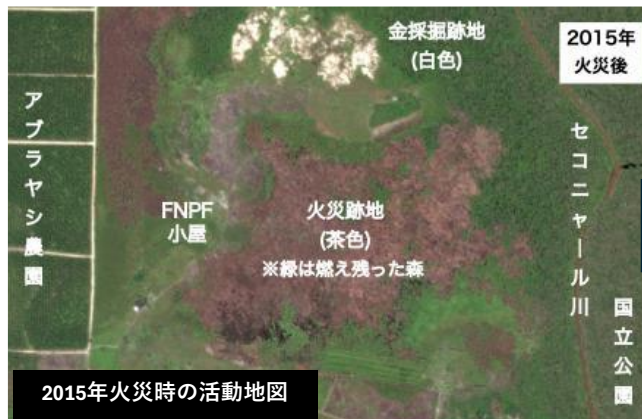
森林が2015年火災で焼失

【活動内容】

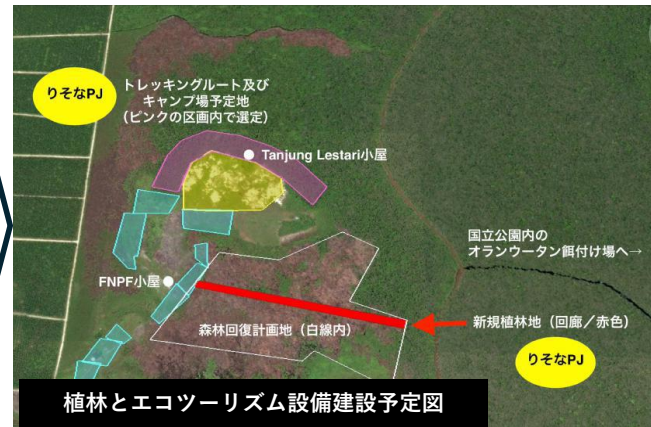
- (1) 火災跡地の生態系回復のため在来種の植林
- (2) 自然を体験するエコツーリズムのための施設建設
- (3) 地元の学生に対しての現場での実践的な環境教育

【活動計画】

- (1) 植林を毎年2,670本実施（2年間、下図赤色の回廊30m×800m）
火の見櫓の建設（火災をいち早く発見し植林地への延焼を防ぐため）



2015年火災時の活動地図



植林とエコツーリズム設備建設予定図

- (2) 1年目：キャンプ場建設とトレッキングルートの整備、
2年目：ツリーハウスの建設
(左図ピンク色箇所)
- (3) 1泊2日の合宿形式で開催
1年目1回、2年目2回